容赦のない〝警棒〟

―6・28 新宿土曜反戦フォーク―

西口地下広場は人・人・人

〝反戦フォーク〟の歌声は、東京を中心に大阪・京都など全国に波及しつつある。ここ新宿でも毎土曜日にはベ平連を中心とするフォーク集会が行なわれ、機動隊と対峙する。以下はそんなある土曜日の新宿のルポである。

（6・28 八重樫記者）

二十八日夜、この日もまた新宿駅西口地下広場は、学生をはじめとする数千の〝反戦フォークソング集会〟に参加する人々で身動きできないほどとなった。

黄昏かけた国電新宿駅西口改札口を出ると、黒、赤、白……のヘルメット、旗がいきなり目に飛び込み、同時に携帯用のスピーカーから、アジ演説やカンパを求める声が流れてきた。

西口地下広場では至るところで、発売以来思わぬブームを呼んでいる獄中手帳集が床の上に積まれて売られている。さらに、ありとあらゆる反日共系の機関紙、反戦ポスターなども並んでいた。

この大人海の渦の中、十数人のギターを抱えた〝ヤングベ平連〟の若者を核に、「栄ちゃんバラード」「機動隊ブルース」などを歌いあげる。しばしば人垣が広がり、通行人が通れるすき間もない状態になると、ベ平連の若者(?)が整理を始めた。曲が終わる度に大きな拍手が広場にこだまする。

この日、新宿郵便局に郵便番号自動読みとり機が強行搬入されたが、それに対して〝ベ平連〟から抗議表明がなされ、同時に以前から提唱されている〝機動隊員の顔を写そう〟との提案、フォーク集会の終了後外に待機している機動隊を写しに行こうとのアピールがなされた。

七時五十分、インターの合唱を最後にフォーク集会は終わった。参加者はその後「安保粉砕」「闘争勝利」のかけ声と共に、道路いっぱいに広がり、時にはジグザグデモも行ないながら、地下道を行進し、地上へと出て行った。西口広場に残った学生らは、小さなグループをいくつも作って討論を行なう。青年と青年、若者と中年、高校生とその父親の年頃と思われるオジサンとの激論のシーンが方方で見受けられる。「高校生はそんなことをしちゃいかん、まず勉強があるだろう」「勉強はちゃんとしてますよ、その上でやっているんです。なぜ高校生だったら自分の主張をしてはいけないんですか」と双方とも口角アワを飛ばす。大人は自分達の常識を疑おうともしないし、若者は非論理的なものは認めない。うなづく者、反論する者、たとえ話はかみ合わなくともそこには真剣な対話があった。

八時半、地下広場に催涙ガスが匂ってきた。地上に駆け上ると、鈍いガス銃の音が聞える。副都心四号線の大通の交差点付近で、ジッとにらむ機動隊と「勝利の日まで」を歌う若者とが対峙していた。しばし投石が続いたが、間もなく機動隊は背後にまわり、学生に向って攻撃を開始した。学生らは一斉に逃げた。広場はバスを待つ者やヤジ馬などが大勢集まっていた。その中に、デモの学生が逃げ込んだ。機動隊はなおも群衆の中まで追いかけ、容赦なく警棒をふるう。

群衆が大きく揺れ動く、そして逃げ惑う。たちまち広場一帯は混乱の渦と化した。それでも「勝利の日まで」の歌声はやまない。そして「機動隊帰れ、帰れ」のシュプレヒコール。機動隊は地下広場や地上にいる群衆に向ってもところ構わずガス弾を撃ち込む。それは頭の上を音を出して飛び、逃げ惑う人々の足元で爆発する。すさまじい光景である。

駅出入口付近まで機動隊が突進してきた。記者は持っていたカメラを向けた瞬間、走り過ぎる機動隊の一人が獣り上げたと思ったと同時に、顔面に衝撃を受けた。気がついてみると前歯が一本、半分ほどかけていた。

十時過ぎ、騒ぎもようやく静まりかけた頃、見ると地上、地下の西口交番のガラスはメチャメチャに壊されていた。地下へ降りると催涙ガスの目にしみる中で数人の若者が〝フォーク集会〟で汚れた地下広場を、大きなビニール袋を引きずりながら掃除をしていた……。

（カットは28日のフォーク集会風景）